

# 福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会  
(福井県生活学習館「ユー・アイふくい」内) 掛谷龍一



春季総体  
(日刊県民福井 提供)



## 福井県高等学校PTA連合会の活動とこれから

活動とこれから

福井県高等学校PTA連合会 会長 掛谷 龍一

今年度高P連会長を務めさせていただきます掛谷龍一です。

ご挨拶の前に、三月十一日の東日本大震災における犠牲者・行方不明者の方々のご冥福と被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。皆様のご協力により集まった義援金は、全額全国高P連に送金いたしました。全国からは九千万円を超える義援金が集まり、去る六月二十五日の全国高P連総会において、被災地の各県高P連にお渡しできることをご報告させていただきます。

今年のPTA活動は、福井県が主管する二十六年度全国大会に向けての実行委員会の立ち上げや、来年度に福井県高P連が創立五周年を迎えるための準備を進めていかなければなりません。また、来年の全国高校総体は、福井県において四種目が開催され、高P連としても連携・協力といったことを検討していく必要があります。今年度は、そういうことから、正副会长会議や理事会といった会議を数多く行うことになると思います。しかし年間の行事も力を入れて行なっていきますので、各校の会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

さて、子どもたちにとつて大きな問題である進学・就職ですが、子どもたちは自分の将来の方向性を模索し、分からることを親に聞き相談して決めていきます。一番大事なのは自主性で、自分で納得して決めていけるようなふれあい方を親として考えるべきだと思います。何時どのような災害や困難があるかもしれない将来のため、自主性・協調性・奉仕の精神をPTA会員の皆様方とともに考えていく年にしたいと思います。会員の皆様のご協力ご支援をお願いいたします。

## 第49回県高P連年次総会

## 会長に掛谷龍一氏(科学技術高等学校PTA顧問)を選出



平成二十三年度の年次総会が六月七日(火)、AOSSA 県民ホールで、三十四校から会員百八十七名が参加して行われた。まず揚原安麿会長は、「十二年度は、十一月の『県高Pデイ』、次年度役員の推薦制、会則の変更等に取り組み、今後の大きな事業である平成二十四年度の県高P連創立五十周年、平成二十六年度の全国大会福井大会主管に向けた制度的な整備を行つた年だつた。各校会長の皆様、役員を担当していただいた皆様、先生方、本当にお世話になりました、ありがとうございました。」と挨拶した。

来賓として出席された広部正紘県教育長は、祝辞の中で「文部科学省の調査では、高校生の就職率は福井県が二年連続で全国一位であった。これは、経済・産業界の協力と学校の熱心な取り組みの成果である。本年度も経済界に対し、高卒の就職についてお願いに伺う予定である。また、県では『福井型十八年教育』を推進していく。「これは、十八年間を一貫した目で育てる試みで、特に幼稚期の教育に焦点を当てて取り組みたい。高校では、希望する進路先へ進学・就職できるよう、学力向上や資格取得に取り組んでいく。平成三十年の国体開催に向けて、スポーツ面でも高校生の一層の活躍を期待したい。」と挨拶された。続いて、長谷川重弘県高等学校長協会長(高志高校長)は、「東日本大震災のことを考えると、本県の春季総体が立派な施設で普通に開催できることに対し、生徒も教職員もその環境に感謝しなければならないと思う。学校現場では、生徒一人一人の進路希望の実現のため誠心誠意教育活動に励んでいるが、今後とも保護者の皆様と手と手を取り合って頑張っていきたいと思っているので、ご支援をお願いしたい。」と挨拶された。



この後、PTA活動に特に功績のあつた五名が県教育委員会から表彰され、各校PTAの活動に貢献された五十四名の方々が当連合会長から表彰された。さらにその後、広報紙コンクールの表彰を行い、開会行事は終了した。

議事に移り、平成二十二年度事業報告、会計決算報告、会則等の一部改正が承認されたあと役員の改選が行われ、会長に掛谷龍一科学技術高校PTA顧問が選出された。新役員を代表して掛谷会長は「平成二十六年には全国大会が福井で開催されるが、これは一万人規模の大会である。今年度から調査・研究に取り組んで行くが、大会成功に向けて皆さんの絶大なるご協力・ご支援をお願いしたい。」と挨拶し、引き続き平成二十三年度事業計画案・予算案が審議のうえ承認され、年次総会は終了した。

一、被表彰者氏名(敬称略)	
*県教育委員会表彰	揚原 安麿(藤島) 奥野 治樹(敦賀) 川野 和彦(啓新)
津田 正則(金津) 松本 典之(武生東)	
*県高等学校PTA連合会長表彰	各校より推薦されたPTA役員五十四名
二、平成二十三年度役員氏名	
会長 掛谷 龍一(科学技術)	
副会長	
西島 和津(金)	
新谷 正浩(敦賀工業)	
内藤 治(若狭)	
高橋 一郎(敦賀気比)	
松村 充生(丹)	
北 満秀(春江工業)	
洋子(丹南)	
聖一(福井工大福井)	
三上 晃生(足羽)	
田辺 治和(美方)	
顧監事	
揚原 安麿	
三、平成二十三年度八月以降の主な大会・研修会	
*全國高P連大会	八月二十五・二十六日
*PTA指導者地区研修会	北海道札幌市
嶺北	九月十日 県生活学習館
嶺南	九月十七日 県三方青年の家
*キャリアガイダンス研修会	十月上旬
*県高P連研究大会	十一月中旬



七月八日(金)・九日(土)、石川県立音楽堂(金沢市)を主会場に、北信越地区高P連会長が、「大会のメインテーマは『いのち輝け!』であるが、豊かな自然と薫り高い文化に包まれたここ石川県で、未来を見つめ、人と人とのふれあいを通して、子どもたちの『いのち』を輝かせるために必要なことは何か、何をしなければならないかをみんなで語り合ってほしい。」と挨拶した。



歓迎アトラクションでは、石川県立金沢辰巳丘高等学校管弦楽部による演奏が行われ、満場の拍手を浴びた。四つに分かれて行われた分科会では、各县からの素晴らしい実践発表が続き、予定時間を超えて熱心な討議が行われた。

二日目は、石川県立津幡高等学校なぎな邦楽部、石川県立津幡高等学校なぎな邦楽部によるアトラクションの後、

声優の増岡弘氏による「サザエさん一家から学んだ家族の幸せ」と題する講演が行われた。増岡

氏は、「水に温

度があるように、

相川順子全国高P連会長が、

「私たちは保護者として、また大人と

して、実社会へ出て自立できる子ども

を育てていく役目を果たさなければな

らない。そのためにも、私たちも自ら

が学び、保護者力をつけていくことが

大事ではないか。」と訴えられた。次

いで北信越地区の高P連活動で功績の

あった三〇名に表彰状が授与された。

石川県副知事と金沢市長の祝辞があつ

て開会式は終了した。

次いで閉会式に移り、大会宣言文を採択し、次年度開催地の富山県高P連会長の挨拶後、吉岡会長の閉会の挨拶で、二日間にわたり開催された北信越地区研究大会は幕を閉じた。

言葉にも温度がある。」と言葉遣いの大切さを訴えられた。九〇分の講演時間があつという間に感じる、心にしみる講演だつた。

次いで閉会式に移り、大会宣言文を採択し、次年度開催地の富山県高P連会長の挨拶後、吉岡会長の閉会の挨拶で、二日間にわたり開催された北信越地区研究大会は幕を閉じた。



### 「大会に参加して」

福井商業高校PTA会長 小林 茂美

東日本大震災後、「いのち輝け!」をテーマに開催された本年度の研究大会は、分科会、講演会共に、「いのちの大切さから人と人の関わり」「コミュニケーション能力を培うことが課題として見えてきました。「愛情」から生まれる「言葉」が、健全な子どもを育むことも学びました。この大会でいただけいた教えを持ち帰り、早速実践できる活動に取り組みたいと思います。

### ☆本県の分科会発表者

第一分科会 高校教育とPTA 橋本 勝利 武生東高校PTA会長	第二分科会 進路指導とPTA 黒原 真理 高志高校PTA顧問
「国際理解教育とPTA」 「本校のPTA活動について」 吉田 秀人 丸岡高校PTA会長	第三分科会 生徒指導とPTA 荒木 武芳 道守高校PTA会長
「暖かく導く生徒指導を目指して」 「進路についての意見交換会の取組み」 吉田 秀人 丸岡高校PTA会長	第四分科会 家庭教育とPTA 荒木 武芳 道守高校PTA会長
「輝く未来のために手をつなGO!」	

## 福井県高等学校PTA指導者 中央研修会〈基調講演〉

# 『情報化社会の光と影』

～インターネットとケータイの時代に～

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科教授 教育学部附属中・高等学校校長

大 谷 尚 氏

たかし  
尚 氏



インターネットとケータイに入る前に、それ以前のメディアやテクノロジーが心に与える影響について考えてみましょう。

テレビゲームが誕生したのは一九八三年、多くの世代がテレビゲームとともに育つてきました。その影響はいろいろ言われており、視力等健康への影響、ゲームの暴力的、破壊的内容が人の攻撃性に影響を与えるのではという研究、ゲームの中での意思決定や判断等が長期的には影響を与えるのではという指摘、遊びの孤立化や命の軽視などです。また、テレビゲームは軍隊で兵士が使っているものと同じなので、子どもに殺人訓練をしていることになるという軍事心理学者の軍人の研究もあります。ただし、「テレビゲー

ムが子どもの生活を変えた」というより、「すでに変わっていた子どもの生活をテレビゲームが吸収した」と考える必要もあるでしょう。

最近の若者の心の変化についてですが、道路で丸くなつて話している若者へ、ライトを上向きにして車が近づいていることを合図すると、車に顔を向けている側の半分だけが移動します。その際、気付かない反対側の人へは何も告げようとしません。告げれば、「どうべきだ」と相手の行動を提案することになり、相手の主体性に踏み込むことになり、それを避けたいのだと思われます。また、バスに乗ると入り口近くから奥に詰めようとしません。それによつてバスに乗れなくなる人がいることは考えません。すなわち自分の行動が人に影響を与えると認識していないません。人と自分との「つながり」を感じていないので。

友達に対する気持ちも不思議で、ある大学生はノートに「時々友達がわがままを言つたりするとすごく腹立つ、ムカツク、死ね！殺す！って思う。だけど基本的に友達は好き。」と書いています。しかしこれは不思議ではなく、例えば中学生が集団で同級生に暴行を加え、途中で被害者も一緒にジユース

を飲みに行き、その後また暴行を続けて殺してしまったという事件も起きていましたが、このノートの言葉に近い状況です。

このような変化にメディアはどのような関係しているかですが、やはり最初に疑われるものはテレビゲームですが、テレビゲーム犯人説についてはいろいろな考え方があり一致していません。しかし少なくともゲームに浸りきることで、自然体験、葛藤の経験、家族や友人との深い対話や自己表出、読書など、心の発達のために必要な体験を喪失していることは確かだと言えると思います。ただしこれらを邪魔するのはゲームだけではなく、受験体制、過多な習い事、核家族化なども共犯者でしょう。

ところでテレビの中の顔は、常に一方通行であり、こちらから働きかけることはできません。また、スイッチを入れたり切つたりして、いつでもリセットできます。ですからテレビこそが、対人認知の変化に影響してきたのかも知れません。バスの事も、目の前の人

がテレビの顔のように見えているとすれば、不思議ではありません。

また、乳児と母親の関係は、「絶対的な依存」と「無条件的な欲求の満足

六月十八日(土)に県生活学習館で、平成二十三年度福井県高等学校PTA指導者中央研修会が開催され、百三十一名の会員が参加しました。最初に、名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授大谷尚氏による、みだしの基調講演がありました。最新の研究者の研究も取り上げながら、具体的な事例を交えた、分かりやすい講演で、参加した会員は、大きな感銘と多くの示唆を受けたことと思います。その講演の要旨を次に掲載いたします。

を求める「暴君的な」依存ですが、これを妨げてきたのが、「テレビ育児」(子どもにテレビを見せておき、その間に用事をする)だという指摘もあります。テレビ育児により、乳児の時代に依存や欲求の満足を得られなかつた人がストーカーになるのではないかと、いう研究もあります。つまり、テレビこそが大きな影響を与えてきたのかもしれません。

さて、インターネットのもたらす問題ですが、自殺関連ホームページによる集団自殺や児童ポルノの売買、だけではなく、児童ポルノのための児童の獲得の場になつていることなどがあります。

児童生徒の画像がネット上で不當に販売され、生徒が自分で裸画像を提供することさえあります。携帯電話には出会い系サイトから様々なメッセンジャーが送られ、それらは女性を格段に優遇する誘いであるため、女性であることで金錢的な価値があると考えるようになります。若者の心の中に性の商品化が起きている結果だと言えるかもしれません。

また、ゲーム感覚で人間の値段を計算するサイトがあり、命・人格の軽視を形成する危険性や、いじめの原因になる恐れもあります。

このような状況で、「自尊感情」と「自己肯定感」の違いは重要です。私の区別では、「自尊感情」は他人との比較による自分への相対評価ですが、「自己肯定感」は他人との比較でなく自分への絶対評価であり、自分を愛しているということです。自分が愛されて育つなかで自分を愛せるようになり、その結果人を愛せるようになります。

チャットも非常に危険なもので、問題の無い人が使つてはいるが、必ず問題を生じる危険性があることを十分認識する必要があります。

次に携帯電話ですが、携帯電話は遠くの人との間は近づけますが、近くの人との間を切り裂いてしまいます。居間に電話があつた時代とは違い、携帯電話では子どもが友だちとする会話や行動を把握できなくなり、我が子に対する親の理解がどんどん減少しているのはその典型的な例です。

もしチエーンメール(不幸のメール)が我が子に来たら、絶対に他人に回させてはいけません。それはのろいの言葉を承認させたことになるからです。

たとえ脅しの文句があつても親はそれを回させず、たとえ大げさでも、「自分が命にかけてもおまえを守つてやる。」と断固とした態度で接するべきです。

日本は、子どもへのケータイ普及率世界一であり、欧米の子どものケータイとは違ひ、インターネット機能も付いているので、子どもが何を見ているのか、何を書き込んでいるのか、常に書き込めば、いざれ自分も書かれることがあります。また、自分が他人の悪口などを

ア上面に生活しており、子どもの考え方、感じ方に影響を与えてはいます。そのことを十分理解した上で対応を考えるべきです。

ではどうしたらよいか。全てを解決する方法は一つ、それは子どもに「愛されないと感じさせること」「自分は、抱えられている感じさせること」です。しかし、ほとんどの子は、「条件付きの愛」(何をだつたら愛してもらえる)しか感じていません。親は、「生まれてきてくれただけで幸せ」という子ども誕生時の気持ち、すなわち無条件の愛に帰らなければなりません。

その上で、日頃から子どもと良く話をすること。悲しかつたこと、辛かつたこと、怒つたこと、恥をかいたことなどの否定的な気持ちや体験についても話すことが大切です。そのためには、親自身が普段からそういう姿を子どもに見せていかなければなりません。また、

親だけでなく、子どもの話をゆつくり聴いてくれる(傾聴)。祖父母の存在も重要です。祖父母はまさしくカウンセラーの役割を果たします。

全ての問題は家庭から始まりますが、その解決もまた家庭にあることを心にとめてください。

総じて子どもたちは大人以上にメディ

## 講演を聞いて

金津高等学校PTA会長 西島 和之



インターネットとケータイは、使い方ひとつで非常に危険なものだと再認識させられました。我が家でも四六時中携帯にさわっている子どもを見るにつけて、いつも悩んでおりました。先生のお話から、解決の糸口は、親子・夫婦の信頼関係を作つておくことが一番大切であると分かり、大いに共感しました。控室でお話をしましたが、学校で携帯メールによるいじめが発生した場合、関わった全ての生徒に、傷つくる人がいることをしつかりと話し、携帯との付き合い方を理解してもらつてはいるとのことでした。それは、全ての子どもを守りたいとの思いからだと熱く語つておられたのが、とても印象的でした。

Introduction

ちよつと  
おじやましまへす!

います。また、生活体験発表会では幾度も全国大会の県代表に選ばれています。



## 生活体験作文発表会(平成22年度)

制約七百六十名の生徒が学んでいます。十六歳から四十代半ばの幅広い年齢の生徒で構成され、個性豊かな生徒たちが学ぶ、福井県で唯一の定時制・通信制教育の独立校で、長い歴史を誇る学校です。

道守高校の一番の特徴は「働きながら、学ぶことができる高校」「ひと足早く社会に出て、いろいろな経験を積み重ねながら、実り豊かな学生時代を過ごすことができる高校」ということです。午前・午後・夜間の三つのコースに分かれ、生徒はいずれか一つのコースに所属し、決められた時間帯に登校しています。生徒会も各コースに設けられ、生徒たちは学校祭をはじめ多くの生徒会行事にそれぞれが協力し、積極的に活動しています。学校祭や遠足などに加え、県定通総合体育大会や生活体験発表、定通連合文化祭等の定時制・通信制独特の活動もあります。

各部活動は優秀な成績を残しており、全国大会や北信越大会に多数出場して

取材をしながら、私自身も心が熱くなり、PTAの持つ可能性を再認識しました。道守高校の更なる発展をお祈りいたします。



生徒たちの手造りで建てられた「理想の塔」

丹生高等学校  
Introduction

親子ボランティア

丹生高等学校は、学校創立八十六年を迎える歴史と伝統ある学校で、卒業生には、西川一誠福井県知事・元最高裁判事の泉徳治氏をはじめ県内外で活躍されている方々が多数おられます

員会を中心に全委員会が協力しながら行つてゐるそうです。その中で大きな行事として、交通安全茶屋・学校祭模擬店・親子ボランティア活動についてお聞きしました。交通安全茶屋では、七月月中旬に交通安全啓発運動の一貫として行われ、P.T.Aと生徒会が中心となって、ドライバーの方々に交通安全を呼びかける活動です。多くのドライバーの方々からねぎらいの言葉がかけられ、とても有意義な活動となつているとのことです。学校祭P.T.A企画では、やきとり・おにぎり・パン等の販売(文化祭)や、体育祭でのかき氷やジュースの販売(体育祭)を行っています。やきとりは生徒たちに大

A group of students in a kitchen setting, focused on preparing food on a long counter.

親子ボランティアは、昨年十一月六日に、生徒・保護者約六十名が参加し、生徒がよく利用する越前町役場前バス停等六ヶ所での清掃・ガラス拭き、草取り・ごみ集め等の奉仕活動を行ったそうです。参加者全員がそれぞれの役割分担で限られた時間の中でスマーズに清掃ができ、参加された保護者の方々は、活動を通して生徒たちの奉仕への眞の姿を見ることができ、とても好感を持つ姿でした。

担で限られた時間の中でスマートに掃除ができる、参加された保護者の方々は、活動を通して生徒たちの奉仕への眞の姿を見ることができ、とても好感を持つたそうです。

取材を通して、地域との信頼・つながりを大切にしながら生徒と一緒に歩むPTA活動であることを強く感じました。

(取材 丹南高等学校PTA会長 東洋子)

# 最優秀賞に武生商業高校

## 第8回 広報紙コンクール

当連合会調査広報委員会では、平成16年度から各校の広報紙の質のレベルアップと、会員に対する広報活動の充実を図るために、広報紙コンクールを実施している。今年度で8回目を迎えた。

4月23日(土)に県生活学習館で、平成22年度中に各校が発行した広報紙を対象に、審査会を開催した。(株)福井新聞社・編集局メディア整理部長の川崎嘉久氏、河和田屋印刷(株)営業部部長の山形徳義氏に特別審査員を依頼し、調査広報委員会で審査を行った。

各校のレベルが年々向上し、創意工夫をこらした、素晴らしい広報紙が多く、甲乙付けがたいものがあったが、次の観点から慎重に審査を進めた。①読みたい内容であるか。②読みやすく工夫してあるか。③子どもたちを中心とした記事がどのように掲載されているか。④心に残るようなインパクトがあるか。⑤独創性、個性があるか。

その結果、次の8校を選び、年次総会の席上で表彰式を行った。

- \*最優秀賞 武生商業高校
- \*優秀賞 丸岡高校 武生高校
- \*佳作 金津高校 藤島高校 高志高校  
足羽高校 敦賀気比高校



## 高校生オーストラリア研修に 二十三名が参加

当連合会主催の第十回高校生オーストラリア生活体験研修は、八月三日(水)から十七日(水)までの十五日間、クイーンズランド州ブリスベン郊外で九校から二十三名が参加して実施します。現地の高校へ通学し、英語レッスン、授業参観、スポーツや文化交流などを行います。また、遠足(一日観光や大学・日系企業訪問なども予定されており、週末はホストファミリーと過ごし、交流を深めます。

多感な高校時代に外国で暮らし、外国から見た日本を知ることは、将来の進路決定や人間形成に大きな影響を与えることでしょう。大きく飛躍する機会にして欲しいと願っています。

各校PTAで取り組んでいただきました東日本大震災の義援金募集は、多くの会員の皆様の協力により、1,240,392円と予想を超える金額を集めることができました。これを五月二十三日に全高P連事務局へ送金いたしました。全国から集まつた義援金は、東北地区を中心とした高等学校PTA連合会に贈呈し、教育支援のため活用していただきま

## INFORMATION

### インフォメーション

分科会では、第一分科会「学校教育とPTA」で武生東高校PTAの橋本勝利会長が「国際理解教育とPTA姉妹校交流受け入れ事業を通して」のタイトルで発表します。

また、全体会会場には各都道府県の優れた単P広報紙が展示されます。本県からは、武生商業高校と藤島高校の広報紙を出展します。大会に参加される方は、全国の広報紙を是非閲覧していただき、自校の参考にしていただきたいと思います。



## 各校PTA会長会議で熱心な討議

### ～今年度の活動について～

六月十八日(土)十時から、各校PTA会長会議が生活学習館(ユニアイふくい)で開催されました。最初の全体会では、今年度の活動として、研究大会や研修会の一層の充実、平成二十六年の全国高P連福井大会に向けた調査・研究、来年に五十周年を迎える県高P連の記念事業について話し合われました。それを受け、総務・健全育成・進路対策・調査広報の四委員会に分かれて、本年度の活動内容について熱心な議論が行われました。最後に全体会で報告しあい、会議は終了しました。

## 武生東高校PTAが発表 全国大会「北海道大会」で

今年の全国大会は、八月二十五日(木)・二十六日(金)に札幌市の北海道立総合体育センターを中心に開催されます。二十五日午後の

事務局所在地

〒九二八二三 福井市下六条町一四一  
福井県生活学習館二階  
TEL 〇七七六一四一四〇五三  
FAX 〇七七六一四一四〇三三